

第2回 帯広市都市計画マスタープラン検討専門部会 会議録 要旨

日時：平成30年8月28日（火）15：00～17：30

場所：帯広市役所 10階 第2会議室

■会議次第

- 1 開会
- 2 都市建設部長あいさつ
- 3 専門部会長あいさつ
- 4 議事
 - (1) アンケートの結果について
 - (2) 都市づくりの課題について
 - (3) 現行都市計画マスタープランの取組状況について
 - (4) その他
- 5 閉会

■委員の意見等

○資料4（アンケートの結果）について

（委員からの意見等）

- ・ Q15「どのような“まち”が効率的で住みやすいと思うか」について、年齢別に分析すると違いや特徴はあるのか。
（事務局からの回答）
▷次回資料として提出する。
- ・ 元気で動ける間は良いが、将来的には自動車を運転できなくなることもあるため、公共交通が重要になってくる。移動スーパーなどの方法もあるが、生活する上では移動手段を確保することが鍵になってくる。
- ・ Q10～Q13都市づくりの実感を問う設問において、評価・考察する際に「そう思う」と回答した人がどの程度の割合であれば評価されていると捉えることができるのか、判断が非常に難しい。例えば、50%以上だから良いというような絶対評価だけでなく、世代別の分析や他都市の結果なども踏まえ、比較しながら検討していくことも考えられる。
- ・ アンケート結果をどう使っていくのが重要である。
- ・ Q10～Q13都市づくりの実感を問う設問のうち、「快適に働けることができる“まち”だと思うか」「心豊かに生活できる“まち”だと思うか」の結果をどう理解するのが重要になる。マイナス評価をプラスにするのかプラスの評価をさらに伸ばすのか、じっくり協議することが必要である。
- ・ アンケートとは少し関係ないが、他都市で都市計画マスタープランを策定する際に、不動産関係の方のマーケット情報を参考にしながら検討した事例もある。一戸建て住宅、集合住宅に関するニーズ、顧客が望む住みやすさの環境など現場の声を聞くことで見えてくるものがある。
- ・ 大手事業者では、従来は車で行く大型店舗を建てていたが、高齢化などを見据えて最近では徒歩で行くような小型の店舗を建てるような事例も見られる。
- ・ 畜産大学の場合は、本州から来て道内に残って就職する学生が多い。
- ・ 帯広は全国区でもブランド力が高い。
- ・ 他都市の事例であるが、生徒数が減ってきた高校で、他都市から入学した生徒と地

- 元の企業が連携し、新しい産業を作りだすようなことを行っている事例もある。
- ・空き家率が高い地区についてクロス集計し、分析検討していくことが必要である。

○資料6（都市づくりの課題）について

（委員からの意見等）

- ・都市のスポンジ化は全国的な課題である。それに対する首都圏の戦略と帯広市などの地方都市の戦略は違うものになる。国交省が示す都市のスポンジ化対策はどういった地域を想定したものか。例えば、西日本では斜面を削りながら都市を形成したが、北海道は河川沿いの平野を活用し都市を形成している。そういった都市の構成そのものが違うため、帯広なりの解決方法を考えていくことが重要になる。
- ・公共空間（道路、公園、河川など）の活用などが1つの解決の糸口になることがある。例えば、道路の車線を一部減少させて、カフェなどにして活用したり、公園などについても同様に活用してにぎわいを作り出す事例がある。こうした取組は全市的に一様に進めようとしても難しいが、特定の地区をモデル地区として建築士会や大学の先生の知恵を借りながら先行して取り組むというのが現実的である。
- ・課題の2つ目「自動車への過度な依存」について、過疎地を対象としたライドシェアの事例がある。道北の天塩町が実際に行っている。帯広版のライドシェアを検討することも考えられる。
- ・畜産大学の学生からもライドシェアのニーズが多くある。
- ・十勝圏はドイツと似ている。ドイツではコンパクトとは言われず、人が少なくなると減築を行い、空いた場所を共有スペースにしている。また、ドイツでは人が分散して住んでいるが、患者の輸送に際してヘリコプターを使っている。もちろん、その分のコスト（税金）はかかるが、15分以内に患者を輸送することができており、人口密度が低い中でも必要な行政サービスを提供することができる。
- ・バスの路線について、現状の帯広市では、行きたい方向によっては乗換えが必要になるなど、不便な状況もある。
- ・拠点的な考えを議論する際には、民間の力を活用することを考えるのが大切である。例えば、立地を誘導したい民間施設に補助金を出す。誘導する場所については、地域住民の声を聞きながら決めるということが考えられる。
- ・地域において、必要な場所、大事な場所を見極めることが重要である。必要な場所には、公共施設だけではなく、民間の施設があることが重要である。また、行政負担の少ない方法を模索することが必要である。
- ・空き家が多い地区の住民が求めている都市構造について分析が必要。
- ・公共交通とサービス施設が連携し、路線沿いのエリアの価値を高めることが重要である。
- ・滋賀県の公共交通の利用率が上がってきている。要因としては、授業の中で公共交通を利用することのメリットなどを取り上げていることの効果によるものである。帯広市についても将来を踏まえ公共交通の利用率を上げる必要がある。
- ・帯広市はバスが充実しているので、それを活かして活用していくことが今後も重要である。

○資料5（現行都市計画マスタープランの取組状況）について

（委員からの意見等）

- ・専門家の中では、都市計画マスタープランの一番の欠点はアクションプランを策定しないことと言われている。そのような中で帯広市は、都市計画マスタープランのア

クションプランとして、平成20年に「おびひろまち育てプラン」を策定している。このことは非常に意義のあることだと考える。次期の都市計画マスタープランでは、計画実現のために何をすべきなのかについての記述を盛り込むことを検討すると良い。

- ・この先、立地適正化計画を策定するという事を考えると、医療や福祉などの幅広い部門との連携が重要になってくる。例えば、将来、立地適正化計画を策定し、都市機能誘導区域を設定しようとする場合、医療、福祉施設を誘導施設とすることも考えられる。一方で、医療福祉分野において施設の整備計画を別の考えで策定しているということになれば立地適正が進まないということになってしまう。こうした事態を防ぐためにも、都市計画マスタープランのアクションプランに医療、福祉分野に関する内容も記載するべきである。
- ・帯広の街は、「都市計画はあるが都市空間がない」ということが、都市計画の専門家から言われることがある。要するに、都市計画はしっかりされているが、心地よい空間や魅力的な空間があまりないということ。帯広市には景観に関する協議を行う「都市環境デザイン委員会」があるので、それを活用して景観まちづくりという視点で検討することなども重要である。
- ・街の景観を魅力的なものにするという視点を持って、自転車歩行者専用道路の整備を進めるということをプランに盛り込むと良い。
- ・建物の高さをコントロールし、街並みを考えることも重要である。建築物が建蔽率、容積率の上限まで使っているとゆとりのない息苦しい都市になる。東京都では、「しゃれた街並みづくり推進条例」などでメインストリート、重要な道路に面している建物について、例えば壁面位置を揃えるなどのルールを定めて魅力的な都市空間を創っている事例がある。
- ・景観に着目して都市づくりを進めることで帯広市がさらに魅力的で誇れる都市になるのではないかな。
- ・都市計画を進める際は法律と条例が規範となるが、法律は全国ルールであり、自治体独自のルールである条例を積極的に活用することで、独自性のある魅力的な都市の形成につなげている全国取り組みについても参考としながら都市計画を検討するべきである。

■その他

- ・次回は、10月24日（水）に開催することに仮決定した。

以上